

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 3	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and the risk of hypertension in women and men. 男女におけるアルコール消費と高血圧のリスク	
執筆者	
Sesso HD, Cook NR, Buring JE, Manson JE, Gaziano JM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
.Hypertension. 2008 Apr;51(4):1080-7.	
キーワード	
アルコール、高血圧、血圧、前向き研究、男性、女性	
要 旨	
<p>目的： 大量のアルコール摂取は高血圧のリスクを増加させるが、少量から適量のアルコール消費と高血圧発生の関連は議論の余地がある。</p> <p>方法： 私たちはベースライン時に高血圧、心血管疾患および癌のない Women's Health Study の 28,848 人の女性と Physicians' Health Study の 13,455 人の男性を前向きに追跡した。自己申告されたライフスタイルと臨床の危険因子が収集された。女性では総アルコール摂取は酒、赤ワイン、白ワインおよびビールの合計とした。男性では、一つにまとめられた質問から総アルコール摂取が報告された。</p> <p>結果： 10.9 と 21.8 年間の追跡期間中、8,680 人の女性と 6,012 人の男性が高血圧となった。(医師による診断、降圧剤治療、収縮期血圧 140mmHg 以上または拡張期血圧 90mmHg によって定義)。女性では年齢、ライフスタイルで調整したモデルにおいて、アルコール摂取と高血圧の間に J 字型の関連があった。潜在的な中間媒介変数(BMI、糖尿病および高コレステロール)を加えることで、軽度から適度の範囲のアルコールの恩恵が減少し、大量のアルコール摂取の悪影響は増強された。飲料独自の相対リスクはアルコール総摂取のそれと同様であった。男性では、アルコール摂取は高血圧のリスクに有意に関連し、多変量調整後もそれは変わらなかった。ベースライン時の収縮期血圧(120mmHg 未満 vs 120mmHg 以上)または収縮期血圧(75mmHg vs. 75mmHg 以上)によって層別化したモデルにおいても、女性・男性ともに相対リスクを変化しなかった。</p> <p>結論： 結論として、軽度もしくは適度のアルコール消費量は、女性では高血圧リスクを減少させ、男性でリスクを増加させた。アルコールが高血圧リスクに対し有害になる域値は、女性で 1 日あたり 4 杯以上であるのに対し、男性では適度なレベルである 1 日あたり 1 杯以上であった。</p>	